

## 離任のご挨拶

第18航空団司令官  
ブレット・ウイリアムズ准将



第18航空団司令官ブレット・T・ウイリアムズ准将が7月9日付離任いたしました。離任の挨拶文から抜粋でご紹介いたします。

日本の友人の皆様。アメリカ人が初めて沖縄に来島して以来、私達はずっと沖縄の人々が類まれに友好的で寛大な人々だということを知っています。日本人従業員の労働倫理には定評があり、カデナの成功は彼らの貢献と支援なくしてはありえません。

地元経済界は私たちの任務のみならず家族にとってもとても大切です。海外で生活することは不便を伴うものですが、皆様のお蔭で特に不自由なく生活することができます。沖縄での豊かで多様な文化体験は間違いなく忘れられないものとなることでしょう。沖縄の厳しい政治的環境の

なかにおいて、地元の政治家、日本政府機関の方々とともに働く機会を得たことを心から感謝申し上げます。（司令官の職務は）地元の人々の要望と日本国との安全に寄与する任務遂行の狭間で常にバランスを要求される仕事です。その中で、私達は率直に話し合える緊密な関係を保ち、相互尊重の立場で意見を明確にし、ともに懸命に取り組んできたと信じています。

私達ウイリアムズ一家、メリーアン、ミカエラ、ショーン・マイケルと私は空軍での旅を続けます。最後にもう一度皆様に「どうも、ありがとうございます」と感謝申し上げ、離任のご挨拶と致します。皆様に神のご加護と幸運がありますことをお祈り申し上げます。

2009年7月

### 今月号の目次

#### Part I

- 第18航空団司令官、離任のご挨拶
- アメリカフェスト09の様子
- 文化の架け橋—Bridging Cultures
- 嘉手納外語塾インターンシップ

#### Part II

#### !!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。意外な発見があるかも...必見です！

地域清掃ボランティア

サマーハイヤー・プログラム

ウイリアムズ准将、最後のフライトを終え、帰還。



(写真全て、米空軍：チャド・ウォーレン一等兵撮影)

**Brig Gen Brett T. Williams**  
SAYONARA KADENA



# AmericaFest 09



アメリカフェスト



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(米空軍：チャッド・ウォーレン一等兵撮影)



(米空軍：キーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



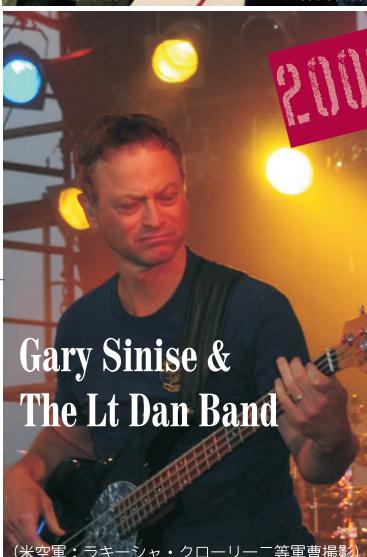
(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



Melinda Doolittle



Gary Sinise &  
The Lt Dan Band

(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)

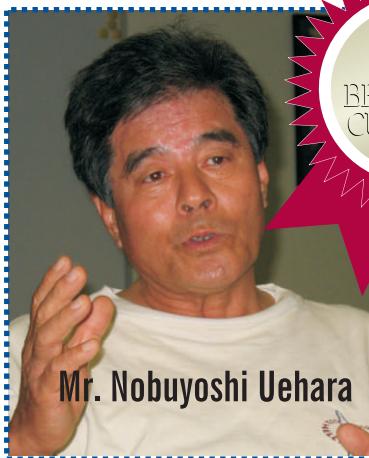


(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

AT  
KADENA AIR BASE, OKINAWA, JAPAN



# BRIDGING CULTURES

嘉手納基地内には、ボランティアとして活躍するたくさんの方達がいます。今回は、ファミリーサポートセンターから上原延義さんを紹介します。

日本語教師 上原延義(のぶよし)先生

## Q1. ボランティアとしての活動内容を教えていただけますか？

嘉手納基地内にあるエアマン＆ファミリーレディネスセンター（旧ファミリーサポートセンター）で週に2回、軍関係者の方々に日本語を教えています。毎週火曜日と木曜日の午後6時から7時半まで、初級クラスと中級クラスを交互に教えていて、各コースは6週間ごとに入れ替わります。現在は中級者クラスを教えています。

## VOLUNTEERING

## Q2. どのような経緯で現在のボランティア活動を始められたのですか？

私は、以前は高校で英語教員をしながら基地内にあるメリーランド大学で日本語を教えていたんです。ところが、途中でアメリカのペンシルベニア大学に2年間国費留学をする機会があり、行って帰ってきたらメリーランド大学でのポジションにはもうほかの人が就いていたんです。それで、知り合いを通じてこの日本語クラスのことを知り、今の活動を始めることになったんです。それからもう10年以上がたちますね。授業は午後6時からですが、いつも30分前には教室に来て生徒たちからの質問に答えられる時間を設けています。個人レッスンが必要な生徒のために、土曜日も来ることがあります。

UEHARA SENSEI!

## Q3. 授業の内容についてお話いただけますか？

私の授業では意思疎通(Communication)を中心に教えています。会話(Conversation)や読み書きではなく自分の気持ち、言いたいことを伝える方法を習得することが目的なんです。生徒たちには教養のあるアメリカ市民として、日本語とその背後にいる文化の両方を学んで欲しいと思っています。そのため、授業の一環として様々な交流活動を企画しています。例えば、私の住んでいる大宜味村で、生徒たちが各自で村内の家々を回って会話の実践練習をしたり、一品料理を持ち寄って公民館で一緒に食事をしたりという事を行っています。地元の皆さんも大いに楽しんでやっていて、これをきっかけに家族ぐるみの付き合いをはじめる方たちもいるんですよ。また、県内の高校への1日留学を企画することもあり、英語だけでなくほかの教科も沖縄の高校生と机を並べて受けてもらいます。授業の内容は完全には理解できなくてもいいんです。実際に雰囲気を感じ取ることが重要なのです。私にとって大切なことは、生徒たちがアメリカに帰った後、沖縄で学んだ、経験した事を広めてもらえることなんですね。

## Q4. このボランティア活動を通して、印象に残っている出来事はありますか？

たくさんありますが、私の息子の結婚式に約30名の生徒を招待したときは楽しかつたですね。「祝儀はいらないから、何が余興をやって貰えないか？」ということで招待しました。生徒たちが自分たちで練習をして、当日舞台の上でやってくれたのが「ソーラン節」だったと記憶しています。嬉しい思い出の一つですね。



ARIGATO-GOZAIMASU, UEHARA-SENSEI!

編集後記 - 日本語の授業だけでなく、軍人・軍属の方たちと沖縄の人たちとの交流活動も精力的に行っている上原先生のお話はとても興味深く、広報部で働く私たちにとっては収穫の多いインタビューとなりました。交通費や食事代など金銭的な報酬の全く無いアメリカンスタイルのボランティアとして、10年以上もこの活動を行ってきた先生のパワーと笑顔に感動しました。先生の今後のご活躍を楽しみにしています。

## Q5. 先生の今後の展望をお聞かせください。

私の住む大宜味村から嘉手納基地までは車で約2時間、とても遠いのですが、私は教えるのが好きなんですね。どんなことがあってもこの活動をやめる気はないですし、ライフワークの一部だと思いますよ。今年で英語教員を退職して5年になるんですが、嘉手納基地でのボランティア活動の他にも、名護の中学校で月水金曜日は3年生にボランティアで英語を教えています。本(日本語)の執筆もしていて、「Kadena-A little America」というタイトルになる予定です。アメリカ留学中の2年間は、本当にいろいろな人たちの援助のおかげでたくさんのものを見て学ぶことができましたし、またそのおかげで今私はここにいるんだと思います。アメリカの広さに驚き、自由と民主主義を肌で感じた事が特に印象に残っています。そのような経験があったからこそ、私の時間とエネルギーを使って、この活動を今後も続けていきたいと思っています。

BRIDGING CULTURES



# KLI INTERNSHIP 09

嘉手納町立外語塾2年生が  
基地内インターンシップ開始

第18航空団広報局



毎年恒例の嘉手納町立外語塾のインターンシップ(職場体験)が今年も7月7日に始まりました。同塾は、嘉手納町の運営する学校で国際化、高度情報化時代に対応できる人材の育成を目的に平成10年に設立されました。2年間の課程では英語、中国語、スペイン語、パソコン、沖縄の文化、マナー講座等を通してグローバルな人材を育成しています。

嘉手納基地では、同塾の設立当初から塾生の英語力向上を目的に積極的に活動を支援しており、インターンシップに加え月一回のティーンセンターとの親善交流、カデナ スペシャルオリンピックスでの通訳ボランティア等、様々な活動を通じて生の英語に触れる機会を提供しています。

今年のインターンシップでは、同塾の2年生11人が消防署、医療クリニック、保育園等計10箇所の職場で約1ヶ月間の職場体験を行います。体験を行う職場は、塾生への事前調査を元に決め、今回はほとんどの塾生が第一希望の職場に配置されました。

インターンシップ初日、塾生は午前中のオリエンテーションで社会人としてのマナー、基地内の交通ルールや禁止事項、英語を身につけるコツ等について説明を受けた後、バスに乗り込み勤務する各職場の確認など、基地内ツアーに参加しました。

また初日の昼食会ではブッフェスタイルのアメリカンランチを堪能しているところへ、第18任務支援群のヘメネス副司令官が駆けつけ、生徒一人一人を激励しました。昼食を終えて、迎えに来た職場の監督者と対面、緊張した面持ちで各職場に向かって行きました。職場では同僚への紹介、業務の説明等が行われ、一日目の体験を終了。翌日からはフルタイムで午前8時から午後4時までの勤務に就きました。

ほとんどの生徒が英語の聞き取りに四苦八苦しているようです。生の英語は授業で習う英語とは違い、相手の話すスピードや訛り等で聞き取りが困難なようです。特に苦労しているのが電話応対で、相手が見えない分、何倍も集中して相手の英語を聞いています。英語の聞き取りに苦しみながらも日々成長していく生徒達の姿は頼もしい限りです。

インターンシップ最終日には、第18任務支援群司令官のフレッチャー大佐夫妻、職場の上司、学校関係者、父兄を招待しての送別会を嘉手納将校クラブで行います。約一月のインターンシップを終え、生徒達が学んだことや職場での体験、それぞれの成果を英語と日本語で発表します。



当広報局でも神谷沙希子さん、松本貴子さんの2人がインターンを勤めています。毎日電話の応対、地元との交流活動への同行、記事の書き方、写真撮影の研修、英和 和英翻訳等、広範囲にわたって広報局の仕事を体験しています。来月号ではお二人の体験記事を掲載する予定ですのでご期待下さい。

## KADENA GAIGO JYUKU